

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 トライトン・エリート	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.510	△RG 0.046	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：トライトン・エリート

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

比較対照ボール：キネティック・アメジスト

フレアーの幅 インチ

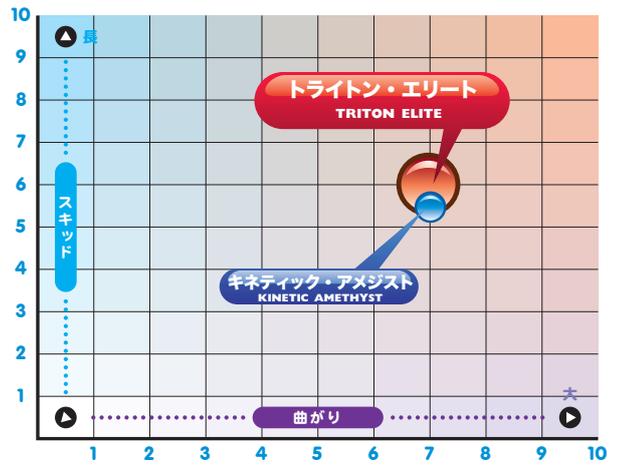
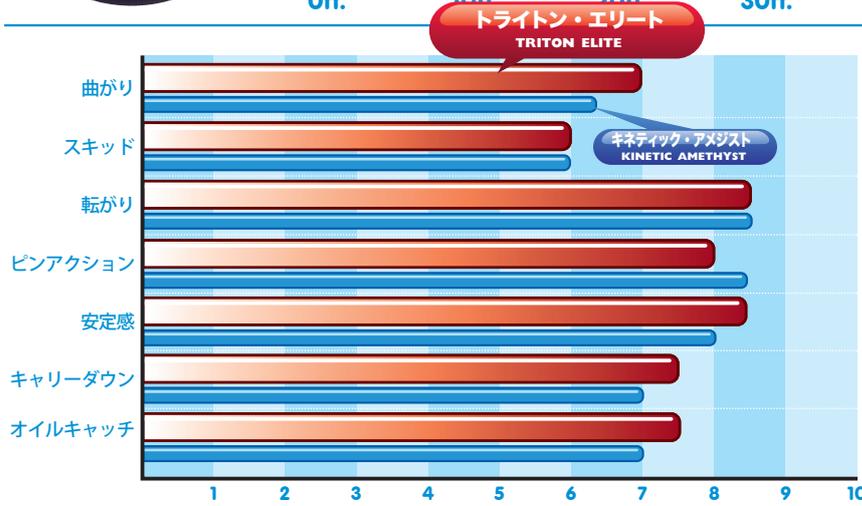
PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

1998当時、薄紫と添加剤の混ざり具合の差にでる若干の白っぽい斑模様…。私もあの当時、これ以上のボールはないであろう、必ずバッグに入れ使用していたのを思い出します。今思えば、昔は今ほどコンディションに合わせ活かせる性能でボールを選択しアジャストすることが当たり前ではなかったので、あの当時TRITON ELITEだけでレーンに向き合えたのも“万能”の所以だったのでしょう。そのTRITON ELITEが20年の時代を経て、今宵復活致しました。

Power PLUSカバーストックという、あの当時TRACK社が軸として使用していたカバーストックを現代のカバーQR-7 Solidリアクティブに置き換えられ、CYBORGやLOGIXと同等のQR(Quick Response)のSolid素材で仕上げられています。カバーストックがQR-7で強めですが動きがもたつかないクイック系のカバーの特徴を最大限にTRITON ELITEに反映させたかったのでしょう、ミディアムコンディションを中心に仕上げている意図は投球してみるとカバーの弱さは感じません。

QRカバーでもSolid素材の特徴が色濃く出ていて、スキッド感がありますが“しなやかさ”というよりはやや早めのキャッチの印象が出ています。対応コンディション領域がミディアムなので、キャッチが強すぎるイメージは感じませんが、幅を取るラインより、幅を絞ってタイトなライン取りのほうが性能が活きるようです。ピンキャリアはやや硬めの重さのあるアクションです。このような性能のボールは私のようなストローカーのタイプよりは回転数が多いの方やツーハンドボウラーには扱いやすさが非常に気に入って頂けるスペックだと思います。ボールが勝手に曲がるというよりは、自分の回転と方向でコントロールしやすいため、重宝するのではないかと思います。動き過ぎるボールの領域ではなく、点数をまとめていくイメージができるボールがこのTRITON ELITEです。

特記事項

コントロールを主体とした堅実に点数をまとめていくボール。曲がり幅がボウラーによって大きく左右されない性能ですので、女性の方からツーハンドボウラーまで多くの方に使用して頂けるでしょう。